



たてやま

議会だより



9月27日 新川保育所

平成20年 9月定例会



よくがんばったね!!

保健福祉総合センターに関して	—	2P
請願・陳情	—————	4P
一般質問	9名が登壇	5P
常任委員会の審議	—————	10P
行政視察報告	—————	11P

No. 300
2008.11.10
 発行/立山町議会
 責任者/議長村田 昭
 編集/広報特別委員会

「保健福祉総合センター

建設促進に関する決議」採択

五百石駅舎での建設は凍結

議員提出議案第7号「保健福祉総合センター建設促進に関する決議」が本会議で図られ、可決という運びになった。これを受けて町長は「現計画地での建設は凍結になる」と発言された。4月にPFI事業活用に関する調査結果が出てから、立山町議会を二分してきたこの問題の争点を掲載する。

〔五百石駅に建設すると想定した場合〕

争点	反対意見	賛成意見
1. 駅舎等での建設	・場所が狭く、土地に余裕がない ・一等地であり敷地価格が高く、住民負担が増える	・境界線まで建物が建てられる ・公共交通の活性化につながる
2. 交通手段	・商店街利用者で電車利用者はわずか2%しかない ・広い町は電車だけが手段ではない	・交通弱者が利用しやすい ・今後お年寄りが増えるので電車は必要である
3. 「中心市街地活性化」	・建物が建てば、商店街が活性化するというのは幻想である	・町中の商店街の再生ができる ・この場所はどこよりも効果がある
4. 町民交流センター	・まちづくり交付金を使って作ると無駄な箱モノ建設になる ・町民会館とダブるものがある	・コミュニティ活動を支える中核的なもの ・イベントホールやふれあい交流室は必要である
5. 交通関係問題	・駐車場は業務用などの車両を考えれば狭く、確保できるかわからない ・信号機や踏切で、通勤時などは大渋滞になる	・職員用は別に用意するし、駅西も考えればよい ・催事は役場駐車場を使えばよい ・問題が発生することは考えられない
6. 図書館	・現図書館は現在地の方が利用しやすく、増築で可能である ・5億円もかけて、不便な所へ移設する必要はない	・年数が相当経過した建物を増築することは、効率的ではない ・電車の待ち時間に利用できる利便性がある
7. PFI事業(民間の力を活用する方法)	・地元の業者の参加が難しく、地域経済の活性化には問題がある	・最初に多額の財源を出す必要がなく、大変有効である
8. 財政見通し	・現在の町財政上から18億円以上の建物は負担が大きい。スリム化した福祉センターを建てるべきである	・国からの支援制度があるうちに、必要な施設を建設した方が得策である
9. 候補地変更問題	・アルプス農協敷地への再度の打診か、前沢中央公園に隣接する町民センター南側か、県土木センターの南側が考えられないか	・電車利用しやすい五百石駅を中心とした場所以外は考えられない

議決提案理由

中川光久議員

私は高嶋清光君ほか6名の賛同を得て、保健福祉総合センター建設について理由を述べ建設促進決議を提案する。

保健福祉総合センターは第8次立山町総合計画の重点事業で、少子高齢化の時代に対応するためにも、保健・福祉・医療を一体化し、効果的に機能を発揮するためにも重要な施設であることから、町民からも早期建設が望まれている。

先に町当局より提案のあった元気創造館は、町民交流センターに重きをおいた施設で規模が大きく将来の財政負担が多額になることや、場所に

ついても、限られた面積の中で計画されていることから、施設の配置、駐車場、交通事故、騒音などについて、本会議や全員協議会でも議論があったとおり利便性が悪く問題点も多いことから、次のとおり保健福祉総合センターとして早期建設が望ましいと思う。

場所については、役場庁舎町民会館、図書館なども連携しやすい役場周辺とし、緑地なども配置した利用者の心とむよな癒しの場所であること。

規模については、経常収支比率が90%を超えている町の現状にも考慮し、保健・福祉・医療を一体化したもので面積は最少必要限度の面積、例えば1,800㎡程度とし、将来の財政硬直化を招かないこと。

以上のことを基本に、地方自治の本旨に則り、住民の福祉の増進を図るため、保健福祉総合センターの早期建設促進について賛同をいただき決議をお願いする。

反対討論

米田俊信議員

自民党議員会を代表して、反対討論を行う。
「中途半端」という言葉を、

先ずもって申し上げたい。この規模縮小等を見込んだ中途半端な「保健福祉総合センター建設促進に関する決議案」に対して反対する。

町民の皆様は、すでにお気づきになっておられるはずだ。これ以上、町内に「中途半端」な施設を建設してよいのか。同じ誤りを繰り返すのか。現在の保健センターと老人福祉センターの床面積の合計は約1,600㎡である。これに対して、今回の決議案の保健福祉総合センターの床面積は約1,800㎡である。

この1割程度の面積の増加では、町民からの要求が急速に高まっている「ゆとりのある図書館」や「高齢者だけでなく子供からお年寄りまで多くの世代が交流できる町民交流センター」は、当然盛り込むことができない。

また、町民の皆様の多様化・高度化する要求水準を無視した、単に既存の施設を寄せ集めただけのような「中途半端」な施設となってしまう。それどころか、

保健センター業務にとって必要な「調理室」が設置できない
行政の推進に不可欠なボランティア活動へも十分に対応できない

・車いす利用者等の障害者もスムーズに利用できるかどうかも分からない
・決議案では国庫補助金等も見込めない、つまり、全額町民の負担となる
・など数多くの問題をかかえる。なぜ、これまで保健福祉総合施設が建たなかったのか。

それは、富樫町長時代から町民の要望に応えるための施設とするために、国の補助がないか模索してきたからではないか。

昨年、滑川市に完成した「医療・福祉・保健の拠点施設」とされる「滑川市民交流プラザ」は、床面積が約5,500㎡である。

しかも、中心市街地の活性化を目的とした場所に建設されている。この建設には立山町の元気創造館と同様、国土交通省のまちづくり交付金が活用されている。

しかし、この決議案の建設には国からの補助が見込めず、未来への投資とは言い難く「血税の無駄づかい」としか言えない。

これに対し、町長が提案している元気創造館は、保健センターや図書館に必要不可欠な「会議室」「研修室」「調理室」などを町民交流センター内に位置付け、保健セン



町民会館と前沢中央公園



五百石駅前と駅舎

ターや図書館以外の目的でも、町民だれもが気軽に利用できるものとしている。

このことよって、施設建設費の一部だけでなく、用地取得費の一部にも国からまわぐくり交付金を受けることができる」と聞いている。

また、町長の提案する建設地を地鉄五百石駅敷地とする元気創造館の図書館は、書架と書架との間が狭いなどの現図書館の問題点を解決するとともに、学生・児童・高齢者をはじめとする電車、そしてバス利用者にも利用しやすくなる。これまで苦痛であった雨や雪の日の電車・バスの待ち時間を、本とふれ合う心豊かな時間にしてくれるものと思像できる。

そして、元気創造館の町民交流センターは、町民の芸術文化活動の発表の場としても、

想定されている。

例えば、町民文化祭では、町民の皆さんの芸術文化活動の成果である絵画・写真・書道などが、中央体育センターに展示されている。

作品がちゃんとした場所で展示され、それらを多くの町民に見ていただき、作者がしっかりと評価され喜んでいただくことが、本町の芸術文化の向上にとって重要なのではないか。

少なくとも芸術文化協会の会員の皆様方には、私の考えに賛同いただけるものと信じている。

ちなみに、中央体育センター建設に際しても、国関連の補助を見込んでいたのがだめになって、全額町負担ということで規模を縮小し、結果的に「中途半端」な施設となってしまったと言われている。

いずれにしても、10年近くも町の重要課題として位置づけられてきた、保健福祉総合センターの建設を「中途半端」なものとして終わらせてはならない。

立山町民の誇りを保つためにも「中途半端」な「保健福祉総合センター」建設促進に関する決議案」に対しては、反対するべきものとして討論とする。

請願・陳情の審査結果

採 択 (賛成議員全員)

第5号

生産資材価格高騰に関する請願書

提出者

アルプス農業協同組合

代表理事組合長 谷川 剛

理由

本県の農業は地域の特性を生かし、生産振興に努めてきたが、生産資材の高騰は農業経営を圧迫している。よって国に対して、生産者の原油・肥料・飼料高騰対策に万全な措置を要請する。

不採 択 (賛成議員少数)

第6号

消費税の増税に反対する請願

提出者

消費税をなくす富山県の会

代表者 水谷敏彦

理由

消費税はある意味で平等である。今、総裁選で増税を言っておられる人もおり、国で議論すればよい。

賛成討論(後藤智文)

二つの点で賛成する。一つは生活必需品の値上げや後期高齢者医療制度にみられる医療・年金の改悪、さらには税金の値上げなどで町民の生活は苦しくなるばかりだ。

二つ目には世論調査で増税反対は61%、賛成は30%と世論は圧倒的に反対している。したがって増税反対の請願に賛成である。

議員提出議案

・生産資材価格高騰に関する意見書の提出

・保健福祉総合センター建設促進に関する決議

・道路特定財源の一般財源化に伴う地方の道路予算確保に関する意見書の提出

・立山町議会会議規則の一部改正

(全員協議会を会議規則に規定する)

・決算特別委員会の設置及び付託

・決算委員選出

- | | |
|-------|-------|
| 委員 長 | 坂井 立朗 |
| 副委員 長 | 村井 隆夫 |
| 委 員 | 細川 均 |
| | 佐藤 康弘 |
| | 伊東 幸一 |
| | 米田 俊信 |



一般質問

知りたいことも 望むことも



町に進出した企業（沢端・下新地内）

9月定例会で行われた一般質問です。
くわしくは、図書館や議会事務局に
議事録があります。
ホームページでもアクセスできます。
<http://www.town.tateyama.toyama.jp/>

伊東幸一 議員



行財政改革

議員 就任以来進めてこられた行財政改革と今後の取組についてどうか。

前進させたい

町長 昨年度より職員を16名削減し279名とした。また、適切な人材を確保・活用するため再任用制度を導入し、効率的行政運営を推進。今後は第9次総合計画に反映させ、着実に前進するよう鋭意努力する。

活力ある町づくり

議員 将来を見据えた都市計画マスタープランを急ぐ必要があると思われるが。

マスタープラン作成

建設課長 各課横断の素案作りをし、本年度都市計画マスタープランを策定するための契約を締結したい。

農業の育成

議員 農業資材の高騰等に対

する支援はどうか。また、米価の変動にも耐える農業を育てていくことが必要と考えるが。

県・国にも働きかける

町長 町単事業を推進し、足腰の強い安全・安心の農業を維持するためにはまず、生産資材を軽減できるような努力する。併せて県・国に対し意欲の減退や後継者の離農につながらないよう働きかける。

議員 消防団協力事業所表示制度の導入は考えているか。

消防署長 今年度中に本制度の導入を図りたい。

議員 立山の自然環境の異変に対しての対応は。

商工観光課長 自然環境の保全に積極的に取り組んでいる。来年度において町主催の外来植物除去活動を実施したい。



消防団協力事業所のパンフレット

中川光久議員



建設進む北部保育所

建設断念の影響は
議員 元気創造館が正式に建設断念となると、セットになっっている「寺田駅前整備計画」などへの影響はどうか。また、これまでの調査費や測量費など、支払った費用は無駄になり、まちづくり交付金も見込めなくなるのか。

支払済み額は町単独財源
町長 事業に関しての支出済み額は約1千万円で、セットになっっている地鉄寺田駅前整備やその他の事業交付金なども対象から外れる。他に契約している履行部分に対する支払いもあり、建設断念となると実質的には町単独財源で対応することになる。

災害時の弱者対策は
議員 自力で避難できない住民の方々が避難場所へ移動するため、機動的に対応できるきめ細かいシステムを

固定資産税率アップの正否は
議員 税率の引き上げは、正しい判断であったか。

改正は正しい判断
町長 教育施設等の整備に加え、高齢者や生活弱者対策にも配慮していることから、改正は正しい判断であったと考えている。

北部保育所の運営は
議員 公設民営化される北部保育所において、今後の運営の見直しはどうか。



民営移行の説明会の開催
町長 社会福祉法人、相幸福社を選び、新保育所への移行や民営化による運営方法等について、保護者を対象に説明会を開いている。事務引継ぎを円滑に行い、適正な運営が出来るよう協議する。

議員との意思疎通は
議員 職員との対話がよくないようだが、どう修復されるか。

情報の共有を
町長 指摘は真摯に受けとめ、職員の意見に耳を傾ける。職員との意識疎通や情報の共有を図り、行政サービスの向上に活かしたい。

議員修正案の否決を受けて
議員 元気創造館の議長修正案の否決を町長はどう思うか。

議会で十分協議を
町長 修正案の否決は議長の権威を落としたのではないかと心配している。国への予算要求のこともあり、10月中旬までに議員の皆様で協議されることを期待する。

窪田一誠議員



建設断念の影響は
議員 元気創造館が正式に建設断念となると、セットになっっている「寺田駅前整備計画」などへの影響はどうか。また、これまでの調査費や測量費など、支払った費用は無駄になり、まちづくり交付金も見込めなくなるのか。

支払済み額は町単独財源
町長 事業に関しての支出済み額は約1千万円で、セットになっっている地鉄寺田駅前整備やその他の事業交付金なども対象から外れる。他に契約している履行部分に対する支払いもあり、建設断念となると実質的には町単独財源で対応することになる。

災害時の弱者対策は
議員 自力で避難できない住民の方々が避難場所へ移動するため、機動的に対応できるきめ細かいシステムを

固定資産税率アップの正否は
議員 税率の引き上げは、正しい判断であったか。

改正は正しい判断
町長 教育施設等の整備に加え、高齢者や生活弱者対策にも配慮していることから、改正は正しい判断であったと考えている。

北部保育所の運営は
議員 公設民営化される北部保育所において、今後の運営の見直しはどうか。

避難勧告訓練を計画
町長 自力で避難ができない方々は、町の公用車等で避難所へ搬送する。来年度以降は避難勧告訓練を計画する。

「大型ポンプ車」更新計画は
議員 大型ポンプ車は配置後約18年経過し、更新時期がきている。「町民の生命財産」を守る視点から、更新計画を立てる必要があると思うがどうか。

次期総合計画で
町長 消防ポンプの内、7台は約18年経過している。車両の更新を検討しながら、消防ポンプ自動車の更新は次期総合計画に盛り込みたい。

避難勧告訓練を計画
町長 自力で避難ができない方々は、町の公用車等で避難所へ搬送する。来年度以降は避難勧告訓練を計画する。

「大型ポンプ車」更新計画は
議員 大型ポンプ車は配置後約18年経過し、更新時期がきている。「町民の生命財産」を守る視点から、更新計画を立てる必要があると思うがどうか。

次期総合計画で
町長 消防ポンプの内、7台は約18年経過している。車両の更新を検討しながら、消防ポンプ自動車の更新は次期総合計画に盛り込みたい。



各分団の大型ポンプ車

高嶋清光議員



宮の杜団地：岩崎地区

第8次総合計画との整合性
議員 (仮称)保健福祉総合センターについては、今計画しているのは第8次総合計画とかけ離れているのでは。

趣旨に沿う
町長 総合計画のそれぞれの趣旨とかけ離れているとは考えていない。

議員 元気創造館でなく「心も身体も癒してくれるような広々とした場所」で第8次総合計画にもとづいた(仮称)保健福祉総合センターの建設をしようか
町長 建設場所について、これまで議員は何回か提案された。今度は「広々とした場所」ということで、一体どれが議員の真意か困惑している。

議員 元気創造館を建設した場合、今年度上がった分の固定資産税の2倍にあたり、毎年、年間1億7千万

支援を強めたい
総務課長 町内には86の自主防災組織ができ、機材の整備も順調に進んでいる。各地区の防災訓練はそれぞれの防災組織で行ってもら

責任は果たす
町長 町民はみな建設を待ちわびていると思っており、今後も町長としての責任を果たしたいと考えている。

単位地区毎の防災訓練を
議員 地震被災地を視察して学んだことは、地域のコミュニティケーションが円滑かどうかだった。単位地域ごとの訓練もするべきではないか。

支援を強めたい
総務課長 町内には86の自主防災組織ができ、機材の整備も順調に進んでいる。各地区の防災訓練はそれぞれの防災組織で行ってもら

責任は果たす
町長 町民はみな建設を待ちわびていると思っており、今後も町長としての責任を果たしたいと考えている。

単位地区毎の防災訓練を
議員 地震被災地を視察して学んだことは、地域のコミュニティケーションが円滑かどうかだった。単位地域ごとの訓練もするべきではないか。

議員 元気創造館を建設した場合、今年度上がった分の固定資産税の2倍にあたり、毎年、年間1億7千万

不登校児の実態と対策は
議員 小中学校で不登校児が増えているが、町の実態と対策はどうか。

昨年より減少
教育長 19年度の不登校児は小学校で8人、中学校は29人で、昨年より減少。対策は学校と連携して早期の対応に努める。

農業の複合化の推進を
議員 農業の複合化を目指して、これまで洋ナシ・桃・リンゴなどが栽培されてきたが、その実態と今後の取り組みはどうか。

町の特産物として
農林課長 洋ナシは上東果樹生産組合、桃は立山もも生産組合、リンゴは白岩地区で進められている。桃については生産量と品質が安定すれば、町の特産物として積極的なPRに努めたい。

若者定住促進を
議員 若者定住事業の取入れについて、前議会では前向きに検討すると答弁されたがどうか。

前向きに検討
町長 関係課と協議し、議員・地域住民の要望や知恵をお借りしたい。前向きに検討する。

円の町民負担になる。それによって多くの事業が影響・縮小・中止になる事も想定される。町民に示して、判断していかなければ無責任ではないか。

町長 建設したとしても、町の財政はもつと考えている。議会の了解が得られれば中期財政計画を示す予定であった。

後藤智文議員



みのり豊かな桃：上金剛寺

責任ある対応を
議員 (仮称)保健福祉総合センターは建設場所が議会で否定された。しかし、行政責任者として任期期間が少なくても、建設に向けて道筋をつけるべきではないか。

責任は果たす
町長 町民はみな建設を待ちわびていると思っており、今後も町長としての責任を果たしたいと考えている。

単位地区毎の防災訓練を
議員 地震被災地を視察して学んだことは、地域のコミュニティケーションが円滑かどうかだった。単位地域ごとの訓練もするべきではないか。

支援を強めたい
総務課長 町内には86の自主防災組織ができ、機材の整備も順調に進んでいる。各地区の防災訓練はそれぞれの防災組織で行ってもら

責任は果たす
町長 町民はみな建設を待ちわびていると思っており、今後も町長としての責任を果たしたいと考えている。

単位地区毎の防災訓練を
議員 地震被災地を視察して学んだことは、地域のコミュニティケーションが円滑かどうかだった。単位地域ごとの訓練もするべきではないか。

議員 元気創造館を建設した場合、今年度上がった分の固定資産税の2倍にあたり、毎年、年間1億7千万

不登校児の実態と対策は
議員 小中学校で不登校児が増えているが、町の実態と対策はどうか。

昨年より減少
教育長 19年度の不登校児は小学校で8人、中学校は29人で、昨年より減少。対策は学校と連携して早期の対応に努める。

農業の複合化の推進を
議員 農業の複合化を目指して、これまで洋ナシ・桃・リンゴなどが栽培されてきたが、その実態と今後の取り組みはどうか。

町の特産物として
農林課長 洋ナシは上東果樹生産組合、桃は立山もも生産組合、リンゴは白岩地区で進められている。桃については生産量と品質が安定すれば、町の特産物として積極的なPRに努めたい。

若者定住促進を
議員 若者定住事業の取入れについて、前議会では前向きに検討すると答弁されたがどうか。

前向きに検討
町長 関係課と協議し、議員・地域住民の要望や知恵をお借りしたい。前向きに検討する。

石川孝一議員



今年9月に行われた市祭りの様子



布橋灌漑会、本格的実施を
議員「立山・黒部」世界文化遺産登録の取組みにも効果のある、「布橋灌漑会」を来年度実施してはどうか。

関係機関と調整したい
町長 歴史文化に裏打ちされた伝統行事を守り、次世代に受け継いで行くことは大変意義がある。布橋灌漑会実施に当たっては、金銭面始め関係者の負担も考え、数年に一度としたもの。関係機関と調整したい。

共同・共有施設の利用を
町長 原油高は農業経営には大変厳しい状況と考えている。カントリーエレベーター等の共同施設の利用、機械の共有化、化学肥料の高騰には町単独土づくりの活用を勧める。また、全国的な問題でもあり、国にも働きかけた。

原油高と農業への対応は
議員 農業に対する原油高の影響について、現状認識と町の対応はどうか。

元気創造館に係る予算の支出状況は。
議員 元気創造館に係る予算の支出状況は。

町長 PFI導入可能性調査に1,090万円支出しており、また、PFIアドバイザリー業務に2,094万円で委託契約を締結しているが、現在この業務は停止している。

元気創造館は、今建設を
議員 有利な交付金制度がある今、建設すべきではないか。

建設すべきもの
町長 現在の国政の状況を踏まえると、まちづくり交付金制度が不透明であり、この制度があるうちに、建設すべきものと考えている。

バス
議員 大森経由の定期便の運行ができないものか。

週1回定期便を運行する
町長 週1回ずつの「お出かけワゴン」と、五百石から大森を経由して常願寺ハイツと吉峰を結ぶ「健康づくりワゴン」を10月中旬から運行する。

元気創造館、白紙はウソ?
議員 8月6日の全員協議会で、場所を含む議案修正案が否決され、町長は建設計画は白紙と述べていた。建設は、白紙か、凍結か。

事務方に言われて
町長 関係書類を破棄する訳にもいかず、事務方にも言われ、「凍結」という言葉を使った。凍結は議案修正案が認められなかったもので、私の本意ではない。

財政の弾力性を判断する経常収支比率
議員 19年度決算経常収支比率はどうか。また、仮に元気創造館建設後の経費を上乘せした場合の比率は何%になるか。

総務課長 経常収支については、(総務課長の答弁内容を表しました。下表)

場所・規模・財源を提案
議員 本来の保健福祉医療だ

佐藤康弘議員



有害鳥獣の防止対策は
議員 非常に多くのクマの目撃・痕跡情報が寄せられているが対策はどうか。

人身被害の防止に努める
町長 防災無線や広報車による広報活動と、有害鳥獣捕獲隊員によるパトロールを実施する。今年度整備予定のウォーキングコースや、従来より町民が日々利用している各コースについても、鈴やラジオなどの携帯をすすめ、人身被害の防止を促していく。

猟友会の現状と今後
議員 会員の減少と高齢化が進んでいるがどう認識しているか。

狩猟免許の取得機会を増やしていく
町長 取得講習会や試験を年1回から2回実施して、狩猟免許の取得機会を増やしていく。

村井隆夫議員



雇用促進住宅：前沢新町



自主防災組織の構築を
議員 新潟県の十日町市に視察の折、非常時に大切なのは自主防災組織の構築と、3日分の水と食糧。中でも各地区にリーダーは不可欠であった。その後、支援に

議員 談合防止対策の取り組みはどうか。
副町長 入札契約制度検討委員会を発足し、談合防止に取り組みたい。

議員 消防団協力事業所に「入札参加資格に加点」してはどうか。
副町長 消防団員確保に向けた方策と考へ、採用を検討していく。

議員 中山間地に移動販売車を公募してはどうかか。
町長 今後高齢者世帯の増加が見込まれることから、最低限必要な買物が出来る仕組みをつくり、豊かで安心して老後を送れるよう検討をしたい。

細川均議員



元気創造館、白紙はウソ?
議員 8月6日の全員協議会で、場所を含む議案修正案が否決され、町長は建設計画は白紙と述べていた。建設は、白紙か、凍結か。

事務方に言われて
町長 関係書類を破棄する訳にもいかず、事務方にも言われ、「凍結」という言葉を使った。凍結は議案修正案が認められなかったもので、私の本意ではない。

財政の弾力性を判断する経常収支比率
議員 19年度決算経常収支比率はどうか。また、仮に元気創造館建設後の経費を上乘せした場合の比率は何%になるか。

総務課長 経常収支については、(総務課長の答弁内容を表しました。下表)

場所・規模・財源を提案
議員 本来の保健福祉医療だ

県内町村経常収支比率の比較

町村名	H16	H17	H18	H19
舟橋村	82.0	81.8	78.4	71.6
上市町	86.4	88.5	85.6	91.7
入善町	82.9	83.0	81.1	79.8
朝日町	84.0	85.4	84.8	84.8
立山町	86.6	90.0	85.9	90.9
				93.7

この数値は、元気創造館の経費1億7,000万円を、仮に19年度の経常支出に加えたもので、現在、立山町では80%が目標とされています。

については必要な時に必要なものを持って来てくれる民間業者と、物資よりも現金だった。立山町の取り組みはどうか。

強化を図る
総務課長 自主防災組織の強化を図り、特に避難勧告訓練を計画し、又、民間業者との災害連携を進めたい。

雇用促進住宅の利活用を
議員 雇用促進住宅を町営住宅として利活用できないか。

町営住宅入居に配慮
建設課長 雇用促進住宅を町営住宅として利活用するのは大変厳しい状況であり、現在、雇用促進住宅退去者には、町営住宅に優先的に受け入れるよう配慮したい。

の総合センターを、役場・町民会館・図書館とも駐車場が相互利用できる場所、環境面からも前沢中央公園に近接し、建物は木造平屋にすることで財政的にも3分の1程度になるのではないかと。

困惑している
町長 議員は6月議会で、「役場南側に庁舎と元気創造館を併せて建設すれば」と提案されており、議員には困惑している。

外来植物は登山口で対応

白山国立公園
7月10日(木)~11日(金)



白山スーパー林道 (石川県)

白山国立公園の概要
白山は、本州中部地方の西端に位置し、白山連峰を中心とする東西約20km南北約40kmの山岳国立公園である。
白山(2,702m)は、富士山・立山と並び信仰の山として古くから日本三名山に数えられ、信仰のシンボルとして親しまれてきた。白山は、高山植物も多く、これが白山の魅力の大きな要素にもなっている。

自然保護特別委員会行政視察

外来植物の影響については、現在登山口周辺での対応のみで対処できているとのことだった。
白山の登山者は年間4万人、そのうち山小屋宿泊者は2万4千人で、国立公園内の山小屋・避難小屋・トイレ・登山道などは全て県で管理している。

自然保護センターの施設は山麓地区に5つ、いずれも入場無料となっており、展示・観察・情報提供・研修・講演会・指導などを行っている。特にニホンカモシカ・ニホンザル・イヌワシなど、野生動物の自然のままの姿を観察できる施設となっている。

白山地域の特性を活かし、自然保護と利用との調和を図られており、職員の皆さんからも、誇りと熱意が伝わってきた。
白山での取り組みを、私たちが立山の自然保護や魅力の再発見に活かしていきたいと思う。

(参加者)

- | | |
|------|------|
| 委員長 | 窪田一誠 |
| 副委員長 | 石川孝一 |
| 委員 | 坂井立朗 |
| | 村田俊昭 |
| | 米田俊信 |
| | 中川光久 |
| | 高嶋清光 |

総務教育常任委員会

子供の放課後は安心



放課後児童クラブ：利田

総務課

7月8日の集中豪雨で一部の地域において浸水被害が発生したことから、被害を防止するために、地域の自主防災組織に土壌づくりの砂を支給できないか。要望がある地域に対し砂を現物支給する。

税料金課

課税徴収のシステム改修委託料を、補正予算に計上しているが、当初予算に計上できなかったのか。

来年10月以降、住民税を年金から徴収するためのシステムであり、来年1月から電算化する。

教育課

今年度より「放課後児童対策事業」が、町では教育課へ所管替えとなったが、良い点、悪い点はあるか。

良い点は、国が進める「放課後子供プラン」として、放課後対策を同じ教育課で行うことにより、連携が取りやすくなった。一方、県では「放課後児童クラブ」の事業所管は厚生部であり、児童福祉に関連する通知の多くは健康福祉課になるため、不便を感じる。それが縦割り行政の悪い点である。

必要があるため計上した。

農業簿記講習会に参加を

建設課

総合公園は、冬期間も利用されることになるが、除雪費用は計上されているか。

町道・生活関連道路・公共施設でも実施しており、当然総合公園もその対象である。大石原地内の消雪工事は、施工時期を何年の予定で計画しているか。事業費の地元負担はあるのか。

国に補助申請を行い、地方道路整備事業として、平成21年度施工予定である。事業費は委託設計数量に基づき、積み上げ計算が必要になる。現段階での、事業費は約2,300万円で、地元負担は事業費の20%で約460万円となる。

健康福祉課

子育て応援券について、町の取り組みはどうか。

町独自のサービスとして、富山型アイサービス事業所で実施している認可外保育施設の一時保育の利用と、21世紀職業財団の研修を受けた任意団体が実施している一時預かり、そして子どもの送迎を対象サービスに含めたい。予防

産業厚生常任委員会

接種については、町内医療機関に限っては、子育て応援券で支払いができるよう協議している。

農地農業用施設の被災個所を復旧するにはどんな方法があるか。

集落で直すことができるものや、業者に委託するものもある。着工前・復旧中・完成の写真を付けて補助金交付申請を行っている地区もある。復旧工法には地区のやり方が色々あるので、指導にあたりたい。

農業委員会

担い手育成等委託料の中で、農業簿記講習会とは何か。

担い手の農家を対象に、12月から1月頃に勤労青少年ホームにおいて、ソリマチの農業簿記ソフトで講習会を実施したい。

住民環境課

生ごみ処理機はどこに貸与するのか。また、無償か有償か。

国立青少年自然の家へ無償貸与する。

編集方針は住民の目線で

長野県白馬村
8月21日(木)~22日(金)



白馬村にて研修

議会広報特別委員会行政視察

編集の方針は「住民の目線に立ち、親しみやすい・読みやすい」をモットーとしている。本編は、立山町と似ているが、ユニークなのは、わたしのひとこと(夢、私たちに)のコーナーである。それは、毎号3名の村民が自由になんでも投稿できるコーナーで、是非、私たちの。議会だよりにも検討してみたいと思う。

白馬村の今後の課題としては、わたしのひとこと、おらが里づくりへ(地区・地域での事業活動紹介)の、ホームページの拡充のことだった。
視察は学ぶことが多くあり、今後の紙面づくりに生かしていきたい。

(参加者)

- | | |
|------|------|
| 委員長 | 後藤智文 |
| 副委員長 | 村井隆夫 |
| 委員 | 細川均 |
| | 佐藤康弘 |
| | 伊東幸一 |
| | 町田信子 |
| | 桑原米蔵 |

災害時に対応するために リーダー育成を

新潟県十日町市
8月18日(月)～19日(火)

議会運営委員会行政視察

今回の研修の目的は、①新潟・中越地震からの教訓、②危機管理対策、③過疎対策の3点である。印象に残ったのは、自主防災組織の構築の必要性と、3日分の水・食糧と必要な物を必要としている所へ持っていつてくれる民間の業者との災害連携についてだった。

中でも、自主防災組織のリーダーが大切で、隣近所の安否・救助活動の要請・各種のトラブルの解消の為に是非とも必要であるとのことだった。

過疎対策については、里山センター事業、集落安心づくり事業を3本柱に、65歳以上の高齢者だけの世帯、母子世帯、障害者世帯が安全で安心して過ごせるよう、生活環境の維持向上の為に支援を行っているとのことだった。

立山町でも、近年、限界集落と言う言葉が、中山間地域・平坦地域まで聞こえてくる。災害にしても過疎問題にしても、他人事ではなく身近な問題として、今から取り組む必要があると考えさせられた。

よく自助・協働というのが、その為には、まず日頃より、隣近所の事・地域の事・立山町全体の事を見極めることが重要ではないかと

思う。

立山連峰のお陰で、風の災害も少なく、立山砂防のお陰で、水害の心配もなく、こんな素晴らしい郷土立山町に感謝し、将来的に立山町に生まれてよかった。立山町で生活できてよかった」と云われるような、そんな町づくりを目指したい。

〈参加者〉

委員長	米田俊信
副委員長	窪田一誠
委員	後藤智文
	坂井立朗
	村井隆夫
	高嶋清光



地震で大きく起伏した国道(十日町市)

あとがき

仮称「元気創造館」建設に対して、9月議会では多数の議員からの一般質問がありました。反対された議員からは、建設場所の変更や、規模を縮小して早急に建設しなければならぬなどの提案が出され、採択されました。

立山町が誕生したのは昭和29年ですが、町長提出議案が昨年に引き続き2年連続で否決されました。このことについて町民の皆様から、「議会は何をやっているのか」と、強いお叱りの声も多く聞きましたが、当局側も良い教訓として真摯に受け止めてほしいと思います。

これからも、住民の福祉向上と安全・安心等町発展のため議会の中で大いに議論し、一番良い方向に進進しなければならぬと思います。議会だよりには、限られた予算の中で、議会の様子・経緯を出来るだけ多く、解りやすく載せたいと思っておりますので、今後ともご愛読をお願い致します。
(桑原記)



議場の花

提供 雄山家政専修学校
(吉本澄子校長)

議会広報特別委員会

委員長	後藤智文
副委員長	村井隆夫
委員	細川均
	佐藤康弘
	伊東幸一
	町田信子
	桑原米蔵

議会や議会だよりについてのみなさんのご意見・ご感想は
立山町議会内
議会だより係

TEL 462-9984(直通)
TEL 463-1121(代)
FAX 464-1118

立山町議会事務局
〒930-0292 富山県中新川郡立山町前沢2440
ホームページ <http://www.town.tateyama.toyama.jp/> [議会会議録]もご覧ください。